

平成 27 年 「論語」に学ぶ人間学セミナー
ービジネスリーダーとしての生き方を求めてー[第 5 回]

- ・日時 平成 27 年 6 月 10 日 (水) 18 時 30 分～20 時
- ・会場 龍野経済交流センター 2 階会議所ホール (たつの市龍野町富永 702-1)
- ・内容 ①仮名論語 「公冶長第五」
②楽しい論語塾 「教育者としての孔子 (3) 哲学者としての孔子 (1)」
③子々孫々に語りつぎたい日本の歴史 「歴史の分岐点となった日露戦争の勝利」
- ・講師 英齋塾 (人間学探求) 塾長 三木英一氏
- ・受講料 無料 (教材費 2,000 円)
- ・参加者 58 名

○受講内容

まずは先生が書かれたコラム「終戦七十年の節目の年に想う」の紹介をしていただきました。コラムには七十年前の先生が体験されたことからこれからの私たち若い世代に教え導くという先生の想いが書かれており、あらためてこのセミナーの貴重な時間を感謝し、さらに有意義なものにしていきたいと感じました。

仮名論語「公冶長第五」の素読をおこないました。

皆さん背筋を伸ばし姿勢正しくしっかりと読まれておりました。

「敏にして学を好み、下問を恥じず、是を以て之を文と謂うなり」天性が明敏であって学問を好み、目下の者にもへり下って尋ねることを恥じなかった。それを文と諷された。

これは簡単に出来そうでなかなかできないことで、誰にでも素直に尋ねる勇気や気持ちをもっておくことは大切だと感じました。

その後、楽しい論語塾より前回に続き「教育者としての孔子 (3)」と「哲学者としての孔子 (1)」の講義をしていただきました。

「過ちて改めざる、是れを過ちと謂う」(失敗を誤魔化せば苦しみは大きくなる)

大切なのは失敗したと思った時、他人や自分自身をいつまでも責めるのではなく、どのようにしたら早く解決できるか、最善の方法を考えて、具体的に動き出すこと。

反対に繕ったり誤魔化したりしてしまっはなんの解決にもならないばかりか、かえって苦しみや自己嫌悪を招く原因になる。

似たような意味の章句もあり「過ちては則ち改むるに憚ること勿かれ」失敗して改めるか、改めないか。これらの章句の意味は本当に何事においても大切な事だと再認識しました。

引き続き、子々孫々に語りつぎたい日本の歴史より「歴史の分岐点となった日露戦争の勝利」の講義をしていただきました。

まずパール博士の「意見書の結語」の説明をしていただきました。また、「マッキンダーの

海洋地政学」や大韓帝国のできた経緯などの説明もしていただきました。

日露戦争ではロシアや朝鮮の思惑や日本が望んでいたこと、戦争の大きな原因の1つが「義和団事件」を発端ともので日本とロシアがマッキンダーの海洋地政学にあったような関係性だったこと、日露戦争での日本の勝利が大きな影響を世界に与えたということなど、より深く学ぶことができました。

また「ネルソン精神」が印象深く、自分自身の職場などの置き換えても大切なことだと感じました。

今回のセミナーも時間の限られた中で、たくさんのことをわかりやすく講義していただき有意義な時間となりました。

次回、第6回も受講される皆様により良いセミナーとなるようお手伝いさせていただきながら、実のあるセミナーづくりを心がけたいと思います。